

〈特集〉データベースを用いた日本現代史研究Ⅱ

データベースを用いた日本現代史研究Ⅱについて

本特集について

この特集は、日本現代史研究におけるデータベースに注目する。

かつて『史友』第54号（2022年3月刊行）で「データベースを用いた日本現代史研究」を特集した。そこでは、日本現代史を専攻している学部生に向けて、卒論で活用する機会が多いデータベースやデジタル・アーカイブズについて、どのように活用すべきか、活用する際の注意点など、詳しい方々に語って頂いた。さらに、後半では、デジタル・アーカイブを活用した実践編も掲載した。

今回は、前回の特集を踏まえ、その後のデータベースの充実に実を踏まえた特集を企画した。残念ながら、諸般の事情により、当初の企画よりも小規模なものにとどまった。

小宮 京

本特集は、岸俊光、原口大輔（掲載順。以下、敬称略）のインタビューからなる。学部生・大学院生向けの演習で語って頂いた内容をベースとして、それぞれ手を加えて頂いた。岸には「志垣資料」¹に見る戦後内閣情報機構の実像」として、丸善雄松堂のデジタル・アーカイブ（ジャパンデジタルアーカイブズセンター）¹の使い方、「志垣資料」の入手の経緯などを語って頂いた。

原口には、衆議院が実施している「正副議長経験者に対するオーラル・ヒストリー事業」²について、『横路孝弘オーラル・ヒストリー』³の具体的な例を挙げながら語って頂いた。実際に聞き取りに参加した研究者の証言として、貴重である。

このように本特集は、データベースやデジタル・アーカイ

ブズに関して、実践を念頭に置いて、様々なご経験を語って頂くという、大変贅沢な内容となった。

最後に、今後も、資料発掘が進むと同時に、データベースやデジタル・アーカイブズもさらに充実していくことは確実である。機会があれば、様々な日本現代史の資料について、研究者や関係者に語って頂く機会を設けたい。

【謝辞】

本特集は2024年度文学部附置人文科学研究所研究プロジェクトの成果の一部である。

インタビューにご協力いただいた岸俊光、原口大輔各氏（五十音順）、インタビューの整理を手伝ってくれた市川周佑氏（大学院博士後期課程3年）、に感謝したい。

注

- 1 『志垣民郎旧蔵 オンライン版内調資料』
衆議院HP https://www.shugin.go.jp/internet/itdb_annainst/html/statics/shiryo/oral_history.htm
- 2 『第73代衆議院議長・第63代衆議院副議長 横路孝弘』 https://www.shugin.go.jp/internet/itdb_annainst/html/statics/shiryo/yokomichi_takahiro.html